

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 新座駅前教室		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日 ~ 2025年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	8	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ~ 2025年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	10	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 10日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【保護者への速やか且つ丁寧な報告】 ・保護者評価では、「こどもや家族から相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている」という項目について、8件中8件「はい」とご回答いただいている。送迎時に聞き取ったことを迅速に担当者に伝えることや、面談の設定を行うことが強みであると思う。今後も継続と、より広く相談できる機会を設けていきたい。	【報告フローの実施とミーティングでの共有】 ・送迎時に聞き取ったことや相談を受けたことをミーティングでも共有し、全員が把握して支援できるよう工夫している。また、特に身辺自立にかかわることについては、その日にできることを具体的に保護者にお伝えできるよう、担当者と送迎担当者で丁寧に情報共有を行っている。	【専門職との面談の実施】 ・現在は児童発達支援管理責任者や児童指導員が主に保護者の相談支援にかかわっている。今後は専門職との面談を実施することで、児童への共通認識をより高めていきたいと思う。各種検査結果から必要な支援を読み解き、保護者と連携することによって、一人ひとりに対して質の高い支援を目指していきたい。
2	【日替わりのプログラム実施】 ・保護者評価では、「事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている」という項目で100%「はい」というご回答をいただいている。【幼稚園教育要領】【保育所保育指針】を参考とした5領域のプログラムを日替わりで実施することにより、児童は楽しく参加しながらそれぞれの項目にアプローチすることができている。	【イベントの企画と実施】 ・日々のプログラムに加えて、月に1回程度特別プログラムを開催している。動物園や水族館、お芋ほりなどの外出プログラムでは、イベント自体を楽しむことはもちろんのこと、公共の施設での過ごした方や時間に沿って行動することなど、教室外でしか体験できないことを提供できるよう意識している。	【保護者参加型プログラムの実施】 ・今年度は現時点で保護者参加型プログラムを一度しか実施できていないため、日々の成長を直接ご覧いただく機会としても保護者参加型プログラムの実施を強化していきたい。また、保護者同士の交流を深めるため、保護者会にもつなげて気軽に相談できる環境を整えたいと思う。
3	【教室内の空間活用】 ・「生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっている」「こども達の活動に合わせた空間となっている」という項目についても8件中8件「はい」とご回答いただいている。その日のプログラムや活動内容に合わせて、グループ分けや教室を分けるなど環境設定を行っていることが強みだと思われる。	【教室内の構造化】 ・各プログラムに合わせて使用する教室を分けたり、個室を活用するだけではなく、それぞれの教室内でも構造化を意識して取り組みを行っている。スムーズな動線を確保することや児童が取り組む内容に集中できるよう机やホワイトボード、荷物入れの配置をその都度職員で検討している。	【集団の大きさや学齢に合わせた環境設定】 ・現在取り組んでいる構造化を継続することに加えて、小集団での取り組みや学齢ごとのプログラム実施も検討したいと思う。特に休日クラスでは、現在様々な学齢の児童が一緒に活動をしているが、プログラムの内容によっては難易度別にグループや部屋を分けるなど同じ学齢の児童と交流を深めながら学ぶ機会を提供したいと思う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【家族支援プログラムの実施】 ・「家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われている」という項目について、2件「どちらともいえない」とご回答いただいている。保護者参加型プログラムの実施はあったものの、研修などの学ぶ機会の提供は十分に提供できていない状況だと思う。	【保護者会と勉強会の実施不足】 ・今年度は現時点で、保護者会が1回・保護者参加型プログラムが1回と実施回数が少なかったことも要因の一つだと考えられる。実施した保護者会の内容としては「音楽療法について」「夏祭り」「懇談会」の3種類だったため、ペアレントトレーニングや研修などの勉強会については不十分だったと思う。	【見学会や相談会の開催】 ・保護者会の中で見学会や相談会も同時に開催して、実際の療育の場面を見ながらかかわり方や声掛けの方法について説明する機会を設ける。また、相談会では精神保健福祉士や社会福祉士、保育士などが聞き取りを行い、専門的な視点から相談支援を行う機会を提供する。
2	【専門性の高いプログラムの実施】 ・「こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか」という項目について、「通っている教室でもSTの支援を受けられたら嬉しいです。」というご意見をいただいている。普段の療育プログラムに加えて、より専門性の高いプログラムの実施が必要であると考えられる。	【個別療育内容の固定化】 ・現在、集団療育をメインとして日々のプログラムを展開しているが、原則週3日以上お通いのお子様には個別療育の時間も提供している。ワークブックを用いたり、手指の巧緻性を高めるためのグッズを使用するなど、プログラムが固定化されてきていることがひとつの中の要因だと思われる。多様なプログラムが展開できるよう改善する。	【専門職との連携】 ・現在も専門職が作成した専門的支援計画に基づいて支援を展開しているが、今後はより専門職と連携を図り、具体的なプログラムの立案が必要になると考える。専門職を中心に、多様なプログラムのパターンを企画し、マニュアル化して専門職以外でも統一した支援が実施できるよう工夫していく。
3	【地域での交流機会の提供】 ・「保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がある」という項目では、2件「わからない」とご回答いただいている。また、「そのような機会を是非持つていただきたいです。」とご意見いただいているため、今後は地域のイベントに参加するなど地域交流にも力を入れたプログラム作成を行っていきたいと思う。	【地域でのこどもと活動する機会の不足】 ・今年度は現時点で、特別プログラムでは教室の児童だけで取り組むのが多くなってしまっていた。他教室の児童と水遊びでの交流はあったものの、地域の他のこどもと交流する機会は設けることができていなかった。また、保育園や幼稚園のイベントについての情報提供も少なかったと感じているため、広く周知できるように改善したい。	【イベントの企画と実施】 ・特別プログラムでは、外出をして散策をするものが多くなったが、今後は他児童との交流や遊びを通して学ぶ機会を提供するため、児童センターで行われているイベントに参加するプログラムを立案したい。また、地域のお祭りやバザーなどに参加することも地域交流につながるため検討したいと思う。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 新座駅前教室		
○保護者評価実施期間		2025年 10月 1日	~ 2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○従業者評価実施期間		2025年 10月 1日	~ 2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【ガイドラインに沿ったプログラムの実施】 <ul style="list-style-type: none">保護者評価では、「放課後等ディサービスガイドラインで示す支援内容から具体的な支援内容が設定されている」という項目で100%「はい」というご回答をいただいている。集団プログラムの中でも、それぞれの課題に応じて個別にサポートすることを意識している。また、日替わりのプログラムを実施することで児童が楽しみながら活動できることも強みだと思われる。	【特別プログラムの企画と実施】 <ul style="list-style-type: none">日々のプログラムではSSTを取り組んでいるが、机上課題だけではなく運動やゲームを交えることで楽しみながら学ぶことができていると思う。また、月に1回程度特別プログラムを開催している。外出プログラムでは、イベント自体を楽しむことはもちろんのこと、公共の施設での過ごした方や時間に沿って行動することなど、教室外でしか体験できないことを提供できるよう意識している。	【保護者参加型プログラムの実施】 <ul style="list-style-type: none">今年度は現時点で、1回のみ保護者参加型プログラム（クッキング）を開催している。保護者参加型プログラムを実施することで、日々の療育の様子を直接ご覧いただけたり、声掛けの方法についてその場でお伝えできるため、今後も家族支援の視点からも展開していきたいと思う。また、保護者参加型プログラムで外出するなど保護者同士や児童同士の交流も深めていきたい。
2	【保護者との面談や助言の強化】 <ul style="list-style-type: none">「定期的に面談や子育てに関する助言等の支援が行われている」という項目については、7件中7件「はい」とご回答いただいている。送迎時やアプリ上の相談や聞き取ったことを迅速に担当者に伝えることや、面談の設定を行うことが強みであると思う。今後も継続と、より広く相談できる機会を設けていきたい。	【担当者への報告フローの実施とミーティングでの共有】 <ul style="list-style-type: none">送迎時に聞き取ったことや相談を受けたことをミーティングでも共有し、全員が把握して支援できるよう工夫している。また、特にSST、コミュニケーション面については、その日の課題だったことがどのようにクリアできたのかを具体的に保護者にお伝えできるよう、担当者と送迎担当者で丁寧に情報共有を行っている。	【専門職との面談や研修の実施】 <ul style="list-style-type: none">現在は児童発達支援管理責任者や児童指導員が主に保護者の相談支援にかかわっている。今後は専門職との面談を実施することで、児童への共通認識をより高めていきたいと思う。各種検査結果から必要な支援を読み解き、保護者と連携することによって、一人ひとりに対して質の高い支援を目指していく。また、保護者会などで研修や勉強会の実施も検討する。
3	【ブログやプログラムカレンダーでの発信】 <ul style="list-style-type: none">「定期的にホームページ・SNS等で活動概要や行事予定等の情報が子どもや保護者に対して発信されている」という項目についても、100%「はい」というご回答をいただいている。毎月プログラムのお知らせをしていることやイベント時には別紙をお渡ししていた。活動の様子はブログで公開し、活動内容をご覧いただける部分が強みだと思われる。	【ブログで活動内容を詳細に公開】 <ul style="list-style-type: none">ブログでは、月に一度活動の様子を写真付きで公開している。活動内容や時系列だけではなく、その日のねらいや目的についても記載してどのような支援が展開されているかを明確に示すように意識している。同様にその日の目的がすぐにわかるよう、プログラムカレンダーにマークを記載している。	【通常のプログラム以外の報告】 <ul style="list-style-type: none">ブログでは、日頃のメインプログラムを中心に掲載しているが、今後は「就学支援クラス」や「高学年向けプログラム」なども掲載したいと思う。様々な形態のクラスを掲載することにより、それぞれのライフステージに合わせた支援を展開していることを周知することができたらと思う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【地域での交流機会の提供】 <ul style="list-style-type: none">「放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がある」という項目では、3件「どちらともいえない」1件「わからない」とご回答いただいている。児童センターでの活動は行ったことがあったものの、そこで他の児童との交流はなかったため、今後は交流の機会を提供できるよう企画したいと思う。	【地域で他のこどもと活動する機会の不足】 <ul style="list-style-type: none">今年度は現時点で、特別プログラムでは教室の児童だけで取り組むものが多くなってしまった。児童センターでプラネタリウムを見るプログラムはあったものの、地域の他のこどもと交流する機会は設けることができていなかった。また、放課後児童クラブや小学校のイベントについての情報提供も少なかったと感じているため、広く周知できるように改善したい。	【地域交流イベントの企画と実施】 <ul style="list-style-type: none">地域で行われているイベントの情報収集から始めて、児童が楽しく参加できるイベントに応募するなど交流の機会を設けたい。また、以前に利用させていただいた児童センターでのイベントやお祭りなどに参加するプログラムを立案したいと思う。
2	【共感的な支援の実施】 <ul style="list-style-type: none">「事業所の職員から共感的に支援をされていると思う」という項目では、2件「どちらともいえない」2件「わからない」とご回答いただいている。また、スタッフによってばらつきがあるというご意見もいただいているため、統一した支援が実施できるよう、工夫することが必要だと思われる。	【職員のスキルのばらつきと支援の統一不足】 <ul style="list-style-type: none">職員の勤務年数や資格によっては、得意不得意にばらつきがあり、そのことから支援の統一が難くなっている部分があるかと思われる。同じ研修を受講したり、日々のミーティングには参加しているものの、統一されたマニュアルの展開が不足していたと思う。	【職員の専門性の向上と統一した支援の強化】 <ul style="list-style-type: none">職員の専門性の向上のため、経験年数に応じた研修への参加や教室内での勉強会の実施を検討する。共感的な支援の実施については、保護者会だけではなく、相談会を実施したいと思う。相談会では、精神保健福祉士や社会福祉士、専門職との面談を行い、児童に限らず家族支援の視点からもサポートを行う。
3	【きょうだい同士の交流やきょうだいへの支援】 <ul style="list-style-type: none">「きょうだい向けのイベント開催や交流機会の不足」という項目については、2件「どちらともいえない」とご回答いただいている。実際に保護者会の際にお越しいただくことはあったものの、きょうだい向けのイベント開催は実施できていなかったため、改善が必要だと思う。	【きょうだい向けのイベント開催や交流機会の不足】 <ul style="list-style-type: none">以前は保護者参加型プログラムとしてクッキングを行ったが、きょうだいも楽しく参加できるようなお祭りやクリスマス会などイベント開催が実施できていなかったと思う。また、地域の組織（児童センターや放課後児童クラブなど）との連携体制が構築できていなかったため、交流機会の情報提供が少なかった点が課題だと思われる。	【家族参加型のイベント開催】 <ul style="list-style-type: none">以前は保護者参加型プログラムや保護者懇談会に限定してイベントを開催したが、今後は家族全体が参加していただけるようなイベント開催を検討したいと思う。ご家族全員が参加する運動会やごきょうだいも一緒に参加する夏祭りなど楽しみながら児童と交流できるようなプログラムを立案する。